

あまり知られていない 乃木希典大将の人生

伊佐 一久 陸士55

乃木大将のお名前は誰でもご存知と
思う。日露戦争において旅順要塞の激
戦で功績を上げられたこと、敵の將軍
ステッセルとの講和においても、敗戦
軍として扱わず、丁重に扱ったためス
テッセルも感激したなど有名な話なの
で皆さんご存知と思っっている。明治天
皇崩御の時は後を追って自決されてい
る。

本文ではそれ以外の、私自身も知ら
なかったエピソードについてご紹介さ
せていただく。

日露戦争の終了後山縣有朋は陸軍の
リーダーであったが、乃木將軍の功績
と才能を見込んで参謀総長に任命すべ
く明治天皇に上奏したが、天皇は山縣
に、「乃木は学習院院長に任ずる。近
く3人の孫が学習院で学ぶが、孫たち
の教育には乃木が最も適任」と仰せら
れたとのことで、天皇ご自身もお若い
頃の思い出から高潔な人格者である乃
木將軍が適任とお考えになられたので
あろう。

参謀総長は最も優秀な人がなるもの
で、私も乃木將軍は誠実な方とは思っ

ていたが、頭脳については不明であつ
た。しかし参謀総長候補にされるとは、
成績も優れておられたと認識を新たに
したものである。

山縣も後で「陛下の乃木へのご信認
に感激した」と語っている。明治天皇
は乃木が日露戦争で二人の息子を戦死
で失っていることをご存知で、「お前
は子供二人を戦死で失い寂しいだろ
う。代わりに学習院で多くの子供たち
を授ける」と仰せられたとのことであ
る。

更に明治天皇から次のような御製を
賜わっている。

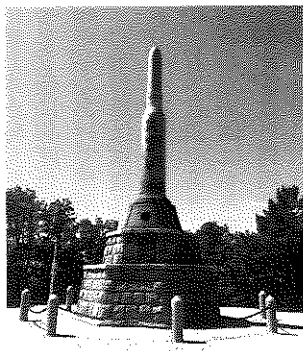
いさある 人の教えの 親にして
おほしたてなむ やまとなでしこ
「おほしたてなむ」は「いつくしみ
育てよう」の意味、「やまとなでしこ」

は皇孫を含む子供たち、更にその母親
たちのお気持ちも含んでおられるので
はないかとお察ししている。

乃木院長もこの御製に感激して以下
の歌を捧げている。
身は老いぬ よし疲(つか)るとも
すべらぎの 大みめぐいに むくいざ
らめや

乃木將軍が師団長の時、部下の兵士
が不正事件に関わったことがあった
が、乃木師団長は責任者でもないのに
休職されている。更に休職後にも拘わ
らず演習などすべてに参加し兵士らと

苦勞を共にされている。勿論休職中だ
からすべて自前であったと思われる。
日露戦争が勃発して乃木は第3軍司
令官に任じられ、旅順要塞攻撃で日本
の勝利に貢献し、ステッセルとの会見
も含めて世界の賞賛を受けられてい
る。



203高地に建つ記念碑

戦後の明治40年(1907)学習院
長を勤められたが、その年に後の昭和
天皇(裕仁親王)が、その後雍仁(や
すひと)親王(秩父宮)、宣仁(のぶ
ひと)親王(高松宮)そのほかにも多
くの皇族のご子弟が入学された。

教育方針も「行状よろしくない時は
遠慮なく正すこと」「成績について
斟酌しないこと」「勤勉、質素にお育
てること」などを定めておられる。

裕仁親王のご登下校の時、玄関で恭
しくお迎えとお見送りをされたが、親
王が挙手の礼を返されると、乃木院長

は次のように申し上げたとのことである。

「導師には心からの真を尽くされますようお願ひ奉ります」と。親王も乃木を深く敬愛されておられ素直にやり直しをされたとのこと、私もこのことを知って感激したものである。

親王も乃木を尊敬されておられたよううで何かにつけて「院長閣下は……」と発言され、日常生活においても服や靴下が破れて侍女が新品に取り替えようとする、「院長閣下は穴の開いた着物はいけないが、つぎのあたった着物は恥ずかしくないと言われたからつぎをあてておくれ」と言われた由で、外国の皇族には想像出来ないことと思っ

ている。
天皇陛下は戦後も、つぎをあてたコートを着ておられたとのことである。私は戦後もしも天皇制が維持できなかったら自決する覚悟であつたが、維持できて安心したことを記憶している。
今次大戦後国民が餓えに苦しんでいる時、昭和天皇がマッカーサーを訪問されたことがあり、マッカーサーは命乞いに來られたと思つたらしい。しかし天皇の「私はどうなつてもいいから、国民を援けてくれ」というお言葉に感激し、一生尊敬していたと聞いている。
乃木院長には立派な院長官舎があてがわれていたが、それを使わず中等科

高等科の生徒と共に寄宿舎で暮らしておられた。朝は午前4時半に起きて寝具などすべて自分で片付けたとのこと、その後もどんな天候でも寄宿舎の寮を見て回り、庭の草刈りまでされたとのことである。

朝食と昼食は生徒らと共にして親しく話し合い、姿勢の悪い生徒には指導しておられたとのこと、親と同じお気持ちであつたと思われる。

8時からの授業には各教室を巡視し、後ろに立つて勉強振りを観察、放課後には防具をつけて竹刀を取り生徒たちを鍛えたとのこと、今の教員にも出来ないと思われる。夕食後10時までは読書し消灯ラッパで就寝された。赤坂の自宅に帰られるのは月に1、2度で、最後の殉死まで5年半続けておられる。

陸軍大将で伯爵でありながら、このように献身的で質素な生活を生徒たちと共に送られたのは、生徒たちにも多大の感銘を与えたと思つている。

学習院の生徒はほとんど裕福な華族の子供で贅沢に育つていたが、乃木の指導で一月も経たぬうちに乃木を慈父のように慕い、「うちのおやじ」と呼んでいたとのことである。乃木院長の部屋にはしばしば生徒たちが来て、院長から喜んで迎えられ楽しく語り合つたらしい。乃木院長は山鹿素行を尊敬

しており、彼の著『中朝事実』を示して指導したとのことである。

「中朝とは日本のことでは愚かだ幸福や富貴に馴れるとこれを忘れるものだ。日本人も高潔な国土、皇統に馴れて自主独立の精神を忘れ墮落する国民が増えているがこれは国家の危機である。天皇の御製にも

よきをとり あしきをすてて外国におとらぬ国と なすよしもがな

とあるように広く知識を求め外国の善きところを学ぶべきであるが、もとより皇道日本の精神に基づくものでなければならぬ」と教えられている。

ある生徒が「世界精神と国家精神は両立するのですか？」と質問したことがあつた。これに対し乃木院長は、

「面白い問題で確かに両立するものだ。まず正しい国家精神を發揚すべきで、これがあつて世界精神も守られるものだ。我が国が立派な道義国として發展すれば、世界人類も成長する」と教えている。乃木將軍は國際的にも広く尊敬されていた日本人の一人であつたが、このお言葉は生徒たちに深い感銘を与えたと思つている。

明治45年(1912)7月30日明治天皇が崩御され、9月13日御大葬後殉死覚悟の乃木院長は19日裕仁親王にご挨拶して『中朝事実』と『中興鑑言』を差し上げている。晩年天皇は「私の

人格形成に最も影響があつたのは乃木希典学習院長であつた」と仰せられている。

昭和天皇は大東亜戦争の終戦に際し、御前會議で終戦に反対する意見もあつたが「私自身はいかにならうとも国民を援けたい」と仰せられて終戦のご聖断を下され、戦後も全国の焦土を8年半かけて巡幸されておられる。

明治45年(1912)9月18日乃木大将夫妻の棺を見送りに数十万人が並び空前の葬式と評された。戦争で不具となつた兵士を收容している廢兵院の患者たちも多数参加した。廢兵院には生前乃木が毎月慰問して回り菓子や果物を土産にあげたり、時には皇室御下賜の品をあげて感激されていた。

乃木將軍は家族には恵まれなかつたよう、静子夫人は鹿児島のご出身だが、將軍自決のあとを追つて自決されている。子供は4人で長男勝典氏、次男保典氏は日露戦争で戦死、長女と三男は出産後死亡くなされている。今の医学なら救命されて、静子夫人も自決されなかつたらうにと残念である。

乃木將軍は俸給の大半を戦死者遺族への弔問、元部下で貧しい人の生活補助、傷病者の医療費に充てていた。ある時父が旅順で戦死し、母は長患いで寝たきり、男の子が新聞配達などで母の面倒を見ている孝行息子の事を聞いて

て、早速その家を訪ねられた。たまたま借金取りが来ていて厳しく請求中であつた。

乃木はその場で借金を払つてやり、更に母親と子供にお金を渡し、戦死した兵士の仏壇にお参りされたのと、親子は嬉しさに泣いて感謝したとのことである。

乃木將軍は機会あるごとに戦死者のお墓にお参りしたり、遺族を訪ねて慰めたが、その時も「戦死されたのは私の責任」と詫びられていた。

その時から35年も前の西南戦争で薩摩軍に聯隊旗を奪われたが、このことを乃木は大罪として自分を責め、ある夜自決しようとしたが、これを予測していた親友の児玉源太郎が飛び込んで説得し中止させたと言う。児玉は日露戦争の翌年亡くなられ、乃木としては生命を預けていた児玉が死んだことで自決の覚悟も強まったと思われる。

明治天皇への殉死という形で自決されたが、以下の辞世の句を残されている。

神あがり あがりましたぬる大君の
みあととはるかに おろが(拜)み
まつる

うつし世を 神去りましし大君の
みあとを 我はゆくなり

日露戦争の敵將軍ステッセルとの会見でも、明治天皇から「武士の名誉を

保たしめよ」との聖旨を頂いて、ステッセルに勲章をつけさせ帯剣も許している。このことは世界の人々を感銘させた。

明治天皇の御製

国のため あだ(仇) なす仇はくだ
くとも いつくしむべき 事な忘れそ
(忘れてはならない)

乃木將軍の歌

射向(いむ) かいし 敵(かたき)
もけふは大君の めぐみの露に うる
ほいにけり

明治天皇御製

いたでおひて たたれずなりし つ
はものを やしなう道に おこたるな
ゆめ

(戦傷を負つて立てなくなった兵たちを 養う道を怠るな、決して)

新渡戸稲造(英文の『武士道』を書く)は、米國陸軍少將が乃木大將を尊敬して、「外国人にも模範の人」と言っている、と述べている。

外国人でも多くの人が乃木將軍を尊敬していて、アメリカの記者スタンレーは『乃木大將と日本人』を書き上げています。彼は第3軍に従軍し乃木將軍に接して「ファーザー ノギ」とまで慕つた人である。

以上あまり知られていない乃木將軍のエピソードをご紹介します。ご意見頂ければ有り難く存じます。